

<編集後記>

本誌の編集が佳境に入った5月上旬、山々にはもこもこした黄色のパッチが目立ち始めます。コジイに代表されるブナ科の雄花が咲いているのですが、とくに社叢が多い京都や奈良では照葉樹林に囲まれていることを実感します。

さて、今号は2014年11月16日に開催された「2010年代の里山管理シンポジウムII」と12月14日に開催された「里山資源の循環的利用」を特集しています。薪やペレットなど、燃料源としての里山活用の可能性を探る企画です。早春からカタクリ、タムシバ、コバノミツバツツジなどが開花する里山は十分に魅力的ですが、この里山の恵みを燃料源として人間が享受していたのは1950年代あたりまで。今、里山と人間とのあらたなつきあいを問う時代を迎えています。

巻頭言をいただいた森林総合研究所の山田文雄氏とは、カイウサギとオオミズナギドリが生息する島嶼の調査をご一緒して以来の親交ですが、「イエネコ」というあらたな外来種問題に一石を投じていただきました。原著論文などの投稿原稿も好調で、すでに12月号の原稿がスタンバイしています。本号発刊にご協力いただいた著者のみなさまに感謝いたします。

さいごに、関西自然保護機構会長を長年にわたって務められ、本会を支えてこられた名誉会員千地万造先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(前迫ゆり)

■ 関西自然保護機構ホームページ

<http://www.omnh.net/konc>

■ 「地域自然史と保全」投稿規定・執筆要領

http://www.omnh.net/konc/toukou_kitei.pdf

■ 四手井綱英記念賞に関する内規

http://www.omnh.net/konc/shidei_naiki.pdf

■ 「地域自然史と保全」37巻1号のPDFは以下のURLにて公開しています。

ログインのためのIDとパスワードはKONCニュースをご覧ください。

http://www.omnh.net/konc/konc_member